

活動③ 東大院生によるミニレクチャプログラム

～大学図書館の新たな役割：“大学の教育との連携”の実践～

新図書館計画 × 大学総合教育研究センター

アカデミック・コモンズ・サポーター
(ACS)

東京大学フューチャー・ファカルティ・プログラム
(FFP)

FFPとは？

大学教員をめざす大学院生を対象にした、さまざまな分野の大学院生と交流しながら模擬授業を通して“教える”実践力を身につけるべく、講義手法（アクティブラーニング）を学ぶプログラム

ミニレクチャは、FFPでアクティブラーニングを学んだ大学院生を講師に招き、研究分野を紹介してもらい、参加者が主体的に考え議論する、図書館で行う授業

・ 事前勉強会（2回実施）

参加者が理解しやすい内容のレクチャにするために、事前の勉強会で講師と一緒に内容・構成・タイムスケジュールなどを検討、ブラッシュアップします。



・ ミニレクチャ当日

講師のサポートをしつつ、講師と参加者の議論に参加したり、アクティブラーニングの手法を用いた講義の意義や、図書館に生まれつつある新しい学びの場について説明します。



図書館の未来をつくる

—図書館の新しい活動の実践



たとえば...
映画、読書、など1つのテーマについて自由に語り合う会を開きたい。
他にも...
ビブリオバトル、本屋大賞東大版 etc...

未来の図書館をつくる

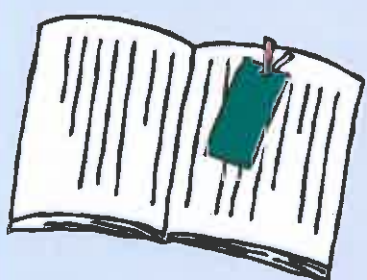
—未来の図書館をつくる具体的計画案への参加



ミニレクチャ等のイベントで得た経験を、図書館新館ライブラリープラザの構想・立案へ生かす。
・ 学生が相互に学び合う場
・ 主体的な議論の場
とはどのような場だろうか。

つたえる・ひろげる

—広報・PR活動の多角化



たとえば...
図書館グッズ
図書館にあるものをモチーフにしたブックマークやカレンダー
建物としての図書館の活用
ロケ地に!? 結婚式に!?

みんなとつながる

—学外・他大学・地域との交流・連携



たとえば...
図書館のゼロ時間目
いわゆる「朝活」の時間帯に大学の先生を講師に招いて学生・大学職員・地域の方を対象としたミニレクチャを行う。